

第 **118** 期

## 中間報告書

平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 9 月 30 日



竹内栖鳳《班猫》重要文化財 山種美術館蔵

株式会社 **ヤマタネ**



代表取締役社長  
**山崎 元裕**

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は平成28年9月30日をもちまして、第118期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の前半を終了いたしましたので、ここに当第2四半期連結累計期間の状況についてご報告申し上げます。

当期におけるわが国経済は、輸入原材料価格の下落等を受け企業収益には底堅さがみられたものの、夏場の天候不順や訪日客のインバウンド需要の頭打ち等により、消費については足踏み状態が長期化し、厳しい業務環境となりました。

かかる状況のもと、物流業界におきましては、在庫調整の影響等により倉庫の保管残高で前年割れが続 き、荷動きについても低調に推移しました。また、国際貨物についても輸送量・取扱金額ともに前年を下回りました。

コメ流通業界におきましては、政府が推進した飼料用米政策により、平成27年産米に切替わった昨秋以降、低価格帯米を中心に需給が引締まり、卸間の仕入

価格である玄米相場が上昇しました。一方で、継続的なコメ消費の減少もあり、精米の販売価格は小幅の上昇に留まり、結果として販売差益率の低下を招く状況になりました。

情報サービス業界におきましては、足許の景況感の低迷が不安要素ではありますが、昨今の事業継続計画（BCP）対策や個人情報保護への関心の高まりにより、企業のIT関連投資は増加傾向が続いております。

不動産業界におきましては、三大都市圏を中心に活発な取引が続きました。また、賃貸オフィスビル市場も都心部を中心に空室率の低下が続いており、賃料水準も上昇傾向にあります。

このような状況下におきまして、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、食品部門におけるコメの販売数量の減少による減収に加え、情報部門、不動産部門も減収となったことから、売上高は252億19百万円（前年同期比3.2%減）となりました。また、営業利益においては期初の予想を上回ったものの、前年対比では物流を除く各部門で減益となったことにより、22億58百

## 営業の概況

万円（同11.1%減）となりました。この結果、経常利益は20億5百万円（同8.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は12億30百万円（同1.3%減）となりました。

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、平成28年産米の価格動向の収益面への影響や足許の経営環境の厳しさも予想されることから、平成28年5月13日に発表した業績予想の通り、売上高は536億円（前期比3.4%増）の増収ながら、営業利益は43億13百万円（同10.3%減）、経常利益は37億40百万円（同9.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は22億10百万円（同2.4%減）を予想しております。尚、配当金につきましては、期末配当として1株につき45円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年12月

### 企業集団の部門別営業の概況

#### (1)物流部門

物流部門では、国内物流での新規の配送センター業務が堅調に推移し、海外引越業務も前年対比増収となりましたが、国内荷動きが低調であったことから保管料等が減収となり、売上高は106億2百万円（前年同期比0.7%減）となりました。しかしながら、営業利益は諸経費の圧縮等により16億45百万円（同1.2%増）となりました。

#### (2)食品部門

食品部門では、量販店・外食向けである精米販売は35千玄米トン（前年同期比3.4%増）と増加しましたが、一般小売店や他卸売業者向けである玄米販売は、コメ取引の需給が締まったことによる業者間取引の縮小等の影響から13千玄米トン（同44.0%減）と大幅に減少しました。この結果、総販売数量は48千玄米トン（同16.1%減）となりました。売上高は、コメの販売数量が減少したことから118億32百万円（前年同期比4.0%減）となりました。営業利益は、昨秋以降のコメの仕入価格上昇による販売差益の縮小が影響し63百万円（同65.7%減）となりました。

#### (3)情報部門

情報部門では、ソフト開発業務における大型案件の終了や棚卸代行関連業務における不採算取引の縮小等の影響により、売上高は10億32百万円（前年同期比10.5%減）となり、営業利益は、99百万円（同25.9%減）となりました。

#### (4)不動産部門

不動産部門では、新規テナント向けの施設改修等に伴う稼働率の低下等により、売上高は18億20百万円（前年同期比3.8%減）、営業利益は8億99百万円（同5.7%減）となりました。

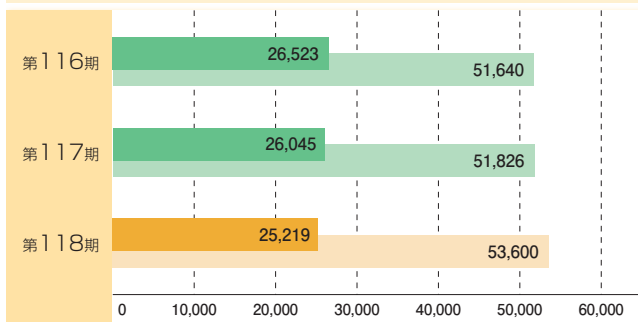
# 財務ハイライト

第2四半期：■ 通期：■ 通期予想：■

<連結>

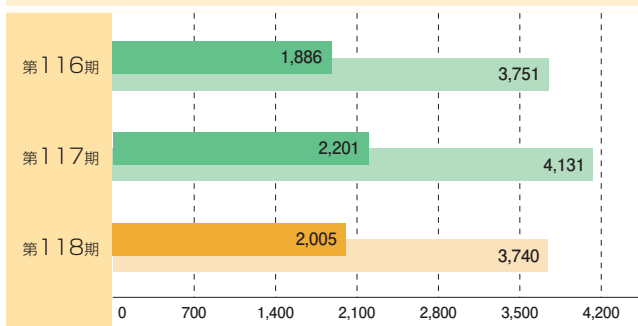
## ●営業収益

(単位：百万円)



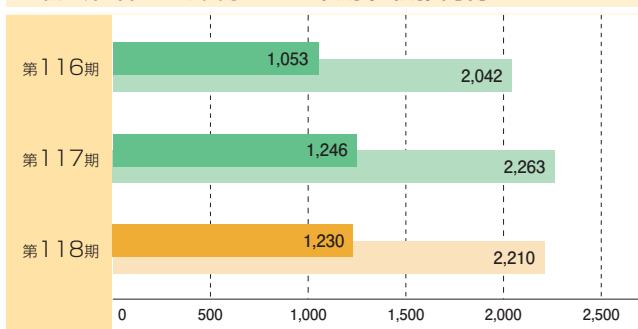
## ●経常利益

(単位：百万円)



## ●親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位：百万円)



# 第2四半期連結財務諸表

## ★第2四半期連結貸借対照表

(平成28年9月30日現在)

(単位：百万円、未満切捨て)

科目	金額
<b>資産の部</b>	
流動資産	9,572
固定資産	82,369
有形固定資産	72,122
無形固定資産	1,168
投資その他の資産	9,078
繰延資産	416
<b>資産合計</b>	<b>92,358</b>
<b>負債の部</b>	
流動負債	16,094
固定負債	42,398
<b>負債合計</b>	<b>58,493</b>
<b>純資産の部</b>	
株主資本	26,420
資本金	10,555
資本剰余金	3,694
利益剰余金	13,984
自己株式	△ 1,814
その他の包括利益累計額	5,011
その他有価証券評価差額金	2,759
土地再評価差額金	2,322
退職給付に係る調整累計額	△ 70
非支配株主持分	2,433
<b>純資産合計</b>	<b>33,865</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>92,358</b>

### ★第2四半期（累計期間）連結損益計算書

（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

（単位：百万円、未満切捨て）

科 目	金 額
I. 営業収益	25,219
II. 営業原価	21,352
営業総利益	3,866
III. 販売費及び一般管理費	1,608
営業利益	2,258
IV. 営業外収益	125
V. 営業外費用	378
経常利益	2,005
VI. 特別利益	56
VII. 特別損失	2
税金等調整前四半期純利益	2,060
法人税等	667
四半期純利益	1,392
非支配株主に帰属する四半期純利益	162
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,230

### ★第2四半期（累計期間）連結キャッシュ・フロー計算書

（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

（単位：百万円、未満切捨て）

科 目	金 額
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,800
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,816
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,050
IV. 現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 2,066
V. 現金及び現金同等物の期首残高	4,476
VI. 現金及び現金同等物の四半期末残高	2,410

### ★セグメント情報

[報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報]

当第2四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）

（単位：百万円、未満切捨て）

	報告セグメント				計	調整額 (注) 1	第2四半期(累計期間) 連結損益計算書 計上額 (注) 2
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連			
売上高							
外部顧客への売上高	10,602	11,764	1,032	1,820	25,219	-	25,219
セグメント間の内部売上高又は振替高	220	-	121	12	355	△ 355	-
計	10,823	11,764	1,153	1,833	25,574	△ 355	25,219
セグメント利益	1,645	63	99	899	2,707	△ 449	2,258

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△413百万円、のれん償却額△39百万円及び未実現利益調整額5百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、第2四半期（累計期間）連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 共同配送事業を新たなプラットフォームへ ～関東圏を中心に家電、加工食品、酒類分野で展開～

小回りのきく、ヤマタネ共同配送事業が順調に拡大しております。当社は「2019中期経営計画」「2024長期経営計画」においても運送事業の強化を打ち出しており、共同配送事業をプラットフォームの核にしていく予定です。

### 【事業の現状】 1日400台稼働、車両増強にも注力

共同配送事業の展開は、ネットワークが充実している関東圏が中心です。これまでは、ヤマタネ保管製品を主としていましたが、最近では他社倉庫保管製品についても、当社の共同配送網を利用したいという要望が増えています。

ヤマタネ倉庫1階を夜間共配ターミナルとして有効活用。子会社である株式会社中央ロジスティクスの車両100台と、協力会社車両300台の計400台（1日当たり）が稼働中です。今後の拡大を鑑み、自社グループで保有する車両数を更に増やしていく予定です。



### 【今後の展開】 千葉に大型施設、保管・運送を一体提供

当社は、千葉県印西市に11万5,000平方メートルの土地を購入しており、2018年に大型倉庫を稼働させる予定です。

これに伴い、保管・荷役・運送が高次元で融合する倉庫を計画。千葉県、茨城県、埼玉県における共配事業のハブ的な活用も検討してまいります。

## 山種美術館 展覧会情報

2016年、山種美術館は50周年を迎えました。これを記念して、山種コレクションを代表する日本画を厳選し、京都画壇、続く次回展では東京画壇と計2回にかけてご紹介します。近代日本美術史を語るうえで欠かせない、名画ばかりを取り揃えた「日本画の教科書」とも呼べる特別展を開催します。本展京都編では、竹内栖鳳《班猫》や村上華岳《裸婦図》の2点の重要文化財をはじめ、上村松園、小野竹喬、福田平八郎、山口華楊、上村松篁、上村淳之など明治時代から現代にいたるまで、京都画壇の画家たちの珠玉の名品をご紹介します。伝統を規範としながら旧来の枠組みを越え、日本画に新局面をもたらした京都画壇の魅力を是非ご堪能ください。

**展覧会名** 【開館50周年記念特別展】山種コレクション名品選Ⅲ  
日本画の教科書 京都編  
—栖鳳、松園から竹喬、平八郎へ—

**会期** 2016年12月10日(土)～2017年2月5日(日)

**会場** 山種美術館  
(〒150-0012 東京都渋谷区広尾3-12-36)

**主催** 山種美術館、朝日新聞社

**開館時間** 午前10時から午後5時  
(入館は午後4時30分まで)

**休館日** 月曜日  
(但し、1/9は開館、1/10は休館、12/29～1/2は年末年始休館)

**入館料** 一般 1200円・大高生 900円・中学生以下無料

**お問い合わせ先** 03-5777-8600  
(ハローダイヤル 電話受付時間：8:00-22:00)  
URL <http://www.yamatane-museum.jp/>

### 今後の展覧会

【開館50周年記念特別展】山種コレクション名品選Ⅳ  
日本画の教科書 東京編 一 大観、春草から土牛、魁夷へ—  
2月16日(木)～4月16日(日)

【企画展】花\*Flower\*華 —琳派から現代へ— (仮称)  
4月22日(土)～6月18日(日)  
ほか(※詳細は山種美術館HPをご覧ください)

表紙の絵：竹内栖鳳《班猫》重要文化財 大正13年 山種美術館

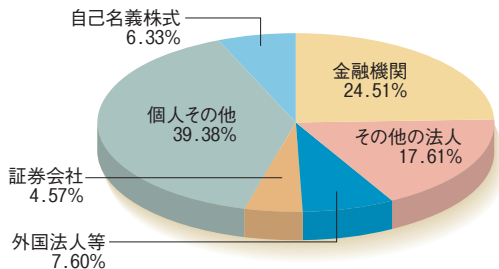
## 株式の状況 (平成28年9月30日現在)

- (1)発行可能株式総数 200,000,000株  
 (2)発行済株式総数 113,441,816株  
※平成28年10月1日の株式併合に伴い発行可能株式総数は20,000,000株に、発行済株式総数は11,344,181株にそれぞれ変更しております。  
 (3)株主数 9,167名  
 (4)大株主(上位10名)

株主名	持株数 千株	出資比率 %
株式会社三井住友銀行	5,176	4.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,523	4.0
山崎元裕	4,113	3.6
東京海上日動火災保険株式会社	3,531	3.1
SMBCFREND証券株式会社	3,000	2.6
清水建設株式会社	3,000	2.6
日本トラスティサービス信託銀行株式会社(信託口)	2,733	2.4
ヤマタネ従業員持株会	2,505	2.2
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,084	1.8
東京瓦斯株式会社	2,000	1.8

- (注) 1. 当社は自己株式7,180,785株を保有しております。なお、出資比率は当該自己株式を発行済株式総数から控除して算出してあります。  
 2. 持株数は、千株未満を切捨てて表示しております。  
 3. 出資比率は、小数点第2位を四捨五入して表示しております。

## 所有者別株主分布状況 (平成28年9月30日現在)



## 従業員の状況 (平成28年9月30日現在)

当社	前期末比	連結	前期末比
319名	0名	778名	14名増

## 役員 (平成28年11月30日現在)

取締役社長	山崎元裕
取締役副社長	高川修治
専務取締役	角田達也
常務取締役	水戸隆
常務取締役	福田尚顕
常務取締役	鈴木康道
取締役	馬場敏行
取締役	曾我部誠
取締役	平田実
社外取締役	齋藤彰一
社外取締役	岡伸浩
常勤監査役	土屋修
社外監査役	清水満昭
社外監査役	内藤潤



株 主 メ モ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日、期末配当金 毎年3月31日、中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	0120-782-031(フリーダイヤル)
(インターネットホームページURL)	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
<b>【株式に関する住所変更等のお手続きおよびご照会について】</b> 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。 証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記の電話照会先までご連絡ください。	
<b>【特別口座について】</b> 株券電子化前に株式会社証券保管振替機構<ほふり>に株券を預託されなかった株主様の株式につきましては、三井住友信託銀行株式会社に開設された特別口座に記録されています。特別口座に記録された株式を売却するためには、株主様があらかじめ証券会社に開設した口座に株式を振り替える必要があります。特別口座についてのご照会やお手続きは、上記の電話照会先をお願いいたします。	
単元株式数	100株 なお、平成28年10月1日付で100株に変更しております。
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して公告する。 ( <a href="http://www.yamatane.co.jp/">http://www.yamatane.co.jp/</a> )
上場証券取引所	東京証券取引所
<b>株式併合について</b> 当社は平成28年10月1日付で普通株式10株を1株に株式併合いたしました(平成28年6月28日開催定時株主総会決議)。また、同日付で単元株式数を1,000株から100株に変更いたしました。株主の皆様には割当株式数を記載した「株式併合に伴う割当株式数のご通知」を10月31日に発送させていただいております。 なお、株式併合の結果1株未満の端数株式が生じた株主の皆様には、端数株処分代金をお支払いいたしております。平成28年11月11日に端数株処分代金領収証をご送付いたしておりますので、ご確認くださいませようお願いいたします。	

## 株式会社ヤマタネ

〒135-8501

東京都江東区越中島1丁目2番21号

電話 東京 (03) 3820-1111 (代表)

ホームページアドレス <http://www.yamatane.co.jp/>